


# 出張報告

報告日 令和3年12月2日

会派名	民友
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	島根原子力発電所
日時	令和3年11月24日（水） 13:00～16:30
場所	島根県松江市
調査項目等	試運転、再稼働、廃止措置が競合する状況について
概要	<p>◆対応者（中国電力株式会社） 中国電力株式会社 島根原子力本部 副本部長 ■■■■■氏、広報部 部長 ■■■■■氏、広報部 担当副長 ■■■■■氏</p> <p>◆島根原子力館 ①概要説明 ②DVD 視聴</p> <p>◆島根原子力発電所 3号機内視察 ①中央制御室（見学ルーム） ②タービン建物 ③原子炉建物 ・オペフロ（見学ルーム） ・上部ドライウェル ・下部ドライウェル ・サブレーションチェンバ</p>    
所感等	<p>【相澤宗一】 島根原子力発電所は柏崎刈羽原子力と同型の沸騰水型原子炉（BWR）であり、1号機は廃止措置作業に着手、2号機は再稼働のための原子炉設置変更許可をこの9月に受けたばかり、3号機は建設の大詰めの状態という原子力の3世代が同居する発電所である。 特に、本来であれば島根3号機は2011年の春には燃料装荷が行われ、試運転、年の暮れには運転開始が見込まれていたが、その直前において待ったがかかり、10年間塩漬け状態となっていた。 新規制基準に対応する安全対策において、柏崎刈羽原子力発電所では放射線量の関係で間近に確認することができない場所が、島根3号機では様子が伺え、理解も深まるものと感じた。</p> <p>【佐藤和典】 9月15日に島根原子力発電所2号機が新規制基準適合性審査に合格したことを受けて、新規制基準対応や安全対策の実施状況、及び避難計画や周辺自治体に対する中国電力(株)の考え方について視察・調査を行った。 海拔・断層の違いから建屋の敷地面積や深さ（階層）も東京電力HDのプラントと違うが、高さ11.9mの津波を想定して建設された標高15m、延長1.5kmの「防波壁」を確認した。また、外部からだけではなく、内部においても水が入らないよう多重の「水密扉」が設けられた地下の非常用発電設備なども確認した。 避難計画については、新潟県と違い県外に避難するケースもあるため、他県と調整を図らなければならないこと。30km圏内が複数の県、市にまたがっている為、周辺自治体との関係が複雑になっていることなどが確認された。 これから先は、国や中国電力(株)より地域に対しての説明が行われるという段階だが、</p>

柏崎のケースを想定しながら島根原子力発電所の取組を注視していきたい。